

祝 辭

本日茲ニ御幸橋政築起工式ヲ舉ゲラル、ニ際シ其席末ニ列スルコトヲ得タノハ私ノ最モ光榮トスル所デアリマス。

オモフニ橋梁ノ架工ハ古來人類ノ生活ト重要ナ關係ヲ持ツテキマシタ莫ハ濱川ニ橋ヲ架シ、仁徳天皇ハ猪甘ノ津ニ橋ヲ造ツテ民ヲ濟シタト言ヒマス、政治ノ理想ガ「萬人ノ最大幸福」タルコトハ昔モ今モ變リハナイデアリマス。

古昔橋梁ノ架設ニ關聯シテ「人柱」ト云フ習慣ガアリマシタ。申スマテモナク迷信ハアクマテ迷信トシテ排斥シナケレバナリマセンガ私達ノ興味ヲ感ズルノハ其當時ノ民衆ガ如何ニ橋梁架設ニ熱心デアツタカ一ツノ橋ヲ得ンガ爲メニハ貴重ナル生命ヲサヘ代償トスル、ナ惜シマナカツタト云フ點デアリマス。ソモ、此ノ御幸橋ハ長クモ明治天皇ノ初メテ渡御遊バサレタトイフ光榮アル歴史ヲ有シ且ッ爾來幾十星霜ノ間愛知、神崎ノ咽喉ヲ扼シ湖東湖南ニ於ケル交通ノ一中心トシテ私達ニ多大ノ便益ヲ與ヘルコトニヨツテ價値ヅケラレテ來タデアリマシタ。

シカシ歲月ハ漸ク之レテ荒ニ就カシメ加フルニ交通ノ頻激ト相俟ツテ曩ニ一ト度明治二十四年改築セラレ、今又茲ニ當局各位ノ盡力ニヨツテ二十三萬圓ノ巨費ヲ投シテ改築セラル、運ビニ至ツタコトハ私達ノ喜ビニ堪ヘヌ所デアリマス。私ハコノ御幸橋ノ與フル便益ヲ享クベキ愛知川町民ノ一人トシテ其ノ起工ヲ深ク喜ビ、祝ヒ、且ッ私達ノ希望ニ副フベク些ノ支障ナク竣工ノ一日モ早カラシムコトヲ切ニ希フモデアリマス。

大正十四年四月十日

愛知川町會議員總代 久 木 尙 治 郎

◎荒川大橋竣工式

四月二十二日埼玉縣大里郡熊谷町、吉岡村立會荒川に架換せられた荒川大橋の竣工式が舉行せられた。昨夜來降りしきつた雨も午前九時頃からやつと霽れ上つて雲の切れ目から麗かな春の日の光が流れ始めたので憂はしげに空を見上げてゐた人達も漸く愁眉を開いた。去三月四日には熊谷大橋の竣工式が行はれ奥村前埼玉縣土木課長は其の式からの歸途悼ましい不慮の死を遂げられたのであつたが丁度その日は三りんほうに當つてゐたといふので此度はかゝる不祥事の起らぬようにとの此の土地の人々の懇望により縁喜を重んじて吉日を選んだのであるといふことであるが先づ此の天氣の霽れ上り方は流石に選ばれたる吉日と申さねばならぬ。ドンパチ／＼と響く煙火の音も急に勢よくなつたようである、出足の遅かつた近在近郷からの善男善女等の數も急に増して來た、掛小屋の舞臺で若衆の囃す笛太鼓の音も遽かに賑はしくなつた。

午前十一時式は新橋々畔に設けられた祭壇に於て官幣大社

氷川神社の宮司足立氏によつて始められて、降神の儀以下齋主の祝詞、工事報告、知事式辭、内務大臣告辭（丹羽道路課長代讀）縣會議長其他來賓の祝辭等凡て滞なく終り、型の如く三組の三夫婦を先頭に渡り初め式に移つたのであつたが、こゝに一つ變つたことが行はれた、それは來賓祝辭のすんだ後で知事が本橋架換工事の請負人たる埼玉縣大里郡吉岡村小林定一氏に對し金盃を授與して同氏の功勞を賞したことである、本橋の架換は後に記すように中々の大工事であつてしかも相當難工事といふべきものであつたが請負人小林氏は本文末尾に掲載した知事の賞狀にも明なるが如く犠牲的精神を發揮し利害打算の念を超越して克く之を完成したのであつた、舉世滔々として私慾に趨り私利あるを知つて公益あるを知らず殊に土木工事の請負等に於ては往々にして不正行爲が伏在し思むべき疑獄事件を惹き起すことさへ見受けるのであるが小林氏の如きは古の俠商義人にも比すべき誠に奇特の士と云はねばならぬ、氏は年齢未だ致命にも達しない俠骨隆々たる顔の持主でいかにも頑強な體軀の人であるが知事代理として今宿内務部長が賞狀を朗讀した上授けた金盃を恭しく受取つた時には満場の會衆皆思はず一種の感激に打たれて美しい情景を現出したのであつた。



府縣道熊谷松山線は古來鎌倉街道として世に知られた關東地方に於ける幹線道路の一部を構成してゐる路線であつて交通頗る頻繁であるが之を横斷してゐる荒川には久しく架橋の設備なく村岡の渡といつて僅かに舢舨によつて連絡を保つてゐるに過ぎなかつた、しかし一度洪水の汎濫に際會すれば數日又は數十日間交通全く吐絶し、而もかくの如きことが一年に數回にも及ぶことさへあるといふ状態であつた、然るに明治四十一年に至つて架橋の機運漸く熟し長二百八十間の木橋新架の工を起し翌年之が竣功を見たので交通上面目を一新するの觀があつたけれども荒川は其の名の示す如く水流極めて荒い川であるから此の橋も年々洪水の爲めに惱まされ修補の煩に堪えないほどであつて未だ交通設備として完全なりとは言ふことは出来なかつた、特に大正三年夏の洪水の際には上流から流下した木材の爲めに橋杭を折られて中間六十間ばかり墜落流失の災を蒙つたので工費五萬八千餘圓を費して鋼製ブラットトラス二連を架設したのであつた、更に大正十年初秋の豪雨に當り愈激なる増水の爲めに又約五十間流失し恰も水災防禦從業中の熊谷工區出張所員等二十一名が激流中に墜落し危く生命を失はうとしたことさへあつた、此に於て埼玉

縣當局は本橋大改築の意を決し之を縣會に詢つたところ幸に満場一致の協賛を得大正十年度より十三年度まで四ケ年の繼續事業として縣の獨力を以て計劃を樹立し工費總額金六十萬六千六百七十五圓を投じて大正十一年一月起工し爾來滞なく其の工程を竣え今日之が完成を見るに至つたのである。埼玉縣は寧ろ小縣といふべきで財力も亦必ずしも他府縣に比して豊富であるといふことは出来まい、しかも克く縣の獨力を以て此の大工事を完成し得たのは全く官民一致協力の結果であり其の意氣は誠に壯なりと謂はなければならぬ。

新橋は延長千六百六十餘尺有效幅員二十一尺中鋼製ブラツトトラス九連、遠く秩父の連山を背景とし櫻に名を得た荒川堤を近景として宏壯なる雄姿を武藏野の一角に現出せしめてゐる。渡初式のすんだ後熊谷座で開かれた荒川大橋竣功協賛會の席上で主催者熊谷町長も來賓總代として挨拶された代議士加藤政之助氏も口を揃へて「見るからに美しく頼もしき新大橋」とたゞへ「熊谷直實の武勇と荒川堤の櫻の外に更に一の熊谷名物を加へることが出来た」と歡喜の聲を擧げられたのも誠に宜なる哉である。私は歡喜に酔ふた協賛會の宴席を退いてから丹羽道路課長、今宿内務部長、加藤代議士等と花散り果てて葉櫻若い荒川堤を漫ろ歩きしながら重ねて埼玉縣

官民の協力一致と壯なる意氣とに對して深く敬意を表し且將來永く維持管理宜しきを得て其利用を完ふせられんことを希望しつゝ、飽かず宏壯な新橋の姿を眺めつくした。

賞 狀

大里郡吉岡村

小林 定一

大正四年荒川大橋改築工事ヲ起スヤ其ノ施工ヲ請負ヒ從業中偶歐州動亂勃發シ之ガ影響ヲ受ケ鐵材勞銀等ノ昂騰日ニ甚シキモノアリシモ多大ノ損失ヲ惜マス遂ニ工事ヲ完成セシメ更ニ大正十一年ヨリ三箇年繼續ヲ以テ本橋改築ノ起業ヲ爲スヤ亦其ノ大部ノ工ノ執行ヲ契約シ銳意工ヲ進メ其ノ間大震災ニ因ル幾多ノ困難ニ遭遇セルモ奮ツテ之ヲ排除シ豫期ノ如ク竣功セシメタルハ畢竟義務ニ忠實ナルノ致ス所ニシテ且ツ地方交通ノ利便ニ貢獻スル甚ダ大ナリトス本日茲ニ開通式ヲ舉グルニ方リ特ニ金盃壹個ヲ授與シ之ヲ賞ス

大正十四年四月廿二日

埼玉縣知事從四位勳三等 齋 等 守 閣

○廣島縣に於ける道路愛護政策

知事諭告——道路共進會規則の制定

道路の良否が産業進展の原動力となることは誰も知つて居る所であるが扱て之が實行を躊躇するのは財政難の問題である。元來道路に關する總ての費用は、國家及公共團體に於て